

第47回 部落差別をはじめあらゆる差別をなくす大津町児童生徒集会宣言文

みなさんは、なぜこの集会が行われてきたと思いますか。

この集会は46年前に始まりました。始まりのきっかけは、差別発言をしたり、それをおかしいと言う人がいなくなったりしたこと。そこで、差別をなくしていこうと、部落差別をおかしいと思っていた人たちが学習会を開き、まず部落差別に気づき、向き合い、差別からの解放を願う運動が始まりました。その最初の行動が「ゼッケン登校」でした。ゼッケン登校は「部落差別を一緒になくしていこう」とする人々の「決意」の表れだったのです。

46年前から「部落差別をはじめあらゆる差別をなくす」という目標のもと、この集会は行われてきました。私たちが本当にいじめや差別によって傷つく人々を減らしていくのであれば、この目標に対する現実を見つめなおすべきではないでしょうか。これだけ長い間集会が行われてきましたが、今でも部落差別をはじめとしたあらゆる差別はなくなっていない。部落差別やあらゆる差別は簡単にはなりません。

私たちがいま考えるべきことは、いじめや差別に気づいたり、まえて防いだりすることはもちろん、実際にいじめが起きたときに、自分がどのように行動するかということです。

そもそもあらゆる差別とは何だと思いますか。

人によって、いやだと感じるものは違います。だからこそ差別というのは、どこからが差別なのかという区別がとても難しいです。しかし差別はされる側ではなく、する側に問題があります。自分のこれまでを振り返り、差別について見つめ直すことで、実際に差別が起きたときにどうするかを考えることができます。

自分のこれまでを振り返ってみて、これから部落差別やいじめが起きたときにどのように行動していきたいか考えましょう。

私はこれまで（ ）だったので
これからは（ ）していきたいです。

「もしいじめや差別が起きたとき、あなたならどう行動しますか。」

あらゆる差別の例：陰口、イジリ、勝手な決めつけ、からかいなど
実際に自分がこれからしていくことを宣言しましょう。

私はこれからいじめや差別が起きたときに
（ ）することを宣言します。
（ ）は部落差別をはじめあらゆる差別を許しません。

私たちの行動でいじめや差別によって苦しんでいる人々を減らしていくことができます。「部落差別をはじめあらゆる差別をなくす」という目標を立てることは簡単です。しかしそれを実現するのは、難しいことだから46年間も集会は続いているのです。それならば、差別をなくすという目標を立てながら、一方では、私たちの目の前でいじめや差別が私起きているという現実に向かってしっかりと目を向けることが、本当の意味でいじめや差別を自分事として考えることにつながり、それをなくしていこうとする行動につながるのではないのでしょうか。

どんな理由があってもいじめや差別はしてはいけません。そして、ただ見ている人もいじめや差別をしているのと同じです。しかしほとんどの場合、いじめや差別に対して注意をする勇気をもつことは難しいです。そういったときには、なかまを頼ることもいじめを減らしていくために大切なことです。おかしさに気づき、いじめや差別を絶対に許さず、みんなの心を繋ぎ、立ち上がる勇気を持って、自分から行動していきましょう。